

第2章

朝倉市の歴史文化遺産の概要と特徴



第1節 指定等文化財の概要と特徴

1 指定等文化財の概要

現在、本市には指定等文化財が93件あります。その内訳は、国指定が12件、国選定が1件、県指定が36件、市指定が44件になります。類型別にみると、天然記念物や史跡が多いことが特徴といえます。

なお、本市において選定された文化財の保存技術や登録された文化財はないため、下記に文化財の保存技術、登録を記載していません。

表2-1 指定等文化財の集計表

類型等	種別		国		県	市	合計
			指定	選定	指定	指定	
有形文化財	建造物		1	—	6	2	9
	美術工芸品	絵画	0	—	1	5	6
		彫刻	2	—	1	1	4
		工芸品	1	—	1	4	6
		書跡・典籍	0	—	0	4	4
		古文書	0	—	1	0	1
		考古資料	0	—	5	6	11
		歴史資料	0	—	0	2	2
無形文化財		0	—	0	3	3	
民俗文化財	有形の民俗文化財		0	—	2	2	4
	無形の民俗文化財		0	—	3	3	6
記念物	遺跡（史跡）		4	—	5	7	16
	名勝地（名勝）		0	—	0	1	1
	動物、植物、地質鉱物（天然記念物）		4	—	11	4	19
文化的景観			—	0	—	—	0
伝統的建造物群			—	1	—	—	1
合計			12	1	36	44	93

※「0」：該当なし 「—」：法や条例による制度のないもの

（令和6年2月現在）



図2-1 指定等文化財の分布

2 指定等文化財の特徴

(1) 有形文化財

① 建造物

建造物では、社寺建築、城郭建築、住宅に加え、石橋が指定を受けています。

普門院本堂は、詳細な記録が残されておらず建立年代は明らかではありませんが、建物の形式手法から鎌倉時代末期に建てられたものとされています。寺伝によれば天平19(747)年に行基によって創立されたと伝えられています。古くは筑後川の中島にあったものを、水害の難を避けて現在地近くに移建されたと伝えられます。



図2-2 普門院本堂

近世の建造物について、城郭に関わるものでは秋月城跡に残る本門(黒門)附長屋門(県指定)があります。武家に関わるものでは18世紀後半に建築された武家屋敷である旧田代家住宅(市指定)や安陪家住宅(県指定)があり、民家では筑後平野に広く分布するクド造りの住宅である旧石井家住宅(県指定)、商家では明和元(1764)年(西棟)と寛政11(1799)年(東棟)



に建立したとされる石田家住宅（県指定）、社寺では文政3（1820）年建築の記録がある木造須賀神社本殿（県指定）などがあります。このほか、石橋の指定が多いのも特徴で、秋月藩が長崎警護を行っていたことから導入された石造秋月の目鏡橋（県指定）や、大正3（1914）年につくられた仁鳥の石造桁橋（市指定）などがあります。



図2-3 石造秋月の目鏡橋

②美術工芸品

絵画

指定されている絵画は、近世の支配者層に関わるものや、社寺の縁起に関わるものです。円清寺には福岡藩の藩祖を描いた紙本著色黒田如水像（県指定）があり、如水がキリスト教を信仰していたことを擦り消した箇所があります。同寺には他にも黒田長政像（市指定）、栗山備後画像（市指定）、栗山大膳画像（市指定）などが伝わります。恵蘇八幡宮絵縁起（市指定）は、恵蘇八幡宮縁起に付属する絵縁起で、神功皇后の三韓出兵と斉明天皇の朝倉橘広庭宮遷宮の様子を描き、当地の伝承と深く結びついています。島原・天草



図2-4 紙本著色黒田如水像（円清寺蔵）



図2-5 恵蘇八幡宮絵縁起（恵蘇八幡宮蔵）

一揆の出陣や戦闘の様子が描かれた島原陣図屏風（市指定）は、秋月藩の木付要人と斎藤秋圃の手によるもので、絵画・歴史資料として高い価値を有しています。

彫刻・工芸品

彫刻や工芸品では、社寺に関わるものが指定を受けています。普門院の本尊である木造十一面観音立像（国指定）は平安時代中期、南淋寺の木造薬師如来坐像（国指定）は平安時代後期の作例です。また、群として指定される南淋寺の日光・月光菩薩及び十二神将像（市指定）にも、平安時代後期に遡る作例が含まれています。梅林庵の木造聖観音立像（県指定）は、建仁4（1204）年の銘をもち、宗坊寺という寺の本尊だったと伝えられます。これらは、当地における仏教文化の隆盛を伝える存在です。

工芸品では、高麗鐘である円清寺の銅鐘（国指定）や応永28（1421）年銘のある南淋寺の梵鐘（県指定）、同寺の南北朝期の雲板（市指定）、普門院本尊厨子（市指定）、大雄山観音

寺（祇園寺）の陶製狛犬（市指定）、秋月のキリシタン灯籠（市指定）などが指定となっています。



図2-6 木造十一面
観音立像
(普門院蔵)



図2-7 木造薬師如来
坐像
(南淋寺蔵)



図2-8 銅鐘（円清寺）
(円清寺蔵)



図2-9 秋月のキリシタン
灯籠

書跡・典籍・古文書・歴史資料

中世末～近世期の地域史や社寺の歴史を物語る資料が指定を受けており、古文書や書跡では小田組大庄屋桑野家文書（県指定）や秋月藩家老の田代家文書（市指定）、三奈木品照寺文書（市指定）、医王山南淋寺縁起（市指定）、恵蘇八幡宮縁起（市指定）などがあり、歴史資料では航海安全の無事を感謝する和船模型「金丸」（市指定）、杷木志波出身の明治の横綱の第15代横綱初代梅ヶ谷横綱免許状（市指定）などがあります。



図2-10 小田組大庄屋桑野家文書

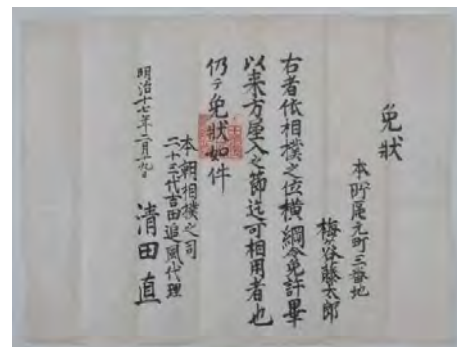


図2-11 第15代横綱初代梅ヶ谷
横綱免許状

考古資料

本市は古くから遺跡の存在が知られており、様々な考古資料が指定を受けています。中国や朝鮮半島とのつながりを示すものが多いことも特徴といえ、弥生時代の中寒水屋敷遺跡出土の中国式銅剣（県指定）や、古墳時代の渡来人存在を示す池の上・古寺墳墓群出土品（県指定）、中世の対外交渉の結果と思われる秋月城跡出土高麗鐘（県指定）などがあります。その他、神蔵古墳出土品（県指定）、堤当正寺古墳出土品（県指定）、狐塚古墳出土遺物一括（市指定）、須川遺跡群出土遺物一括（市指定）、妙見古墳群出土遺物一括（市指定）など



の古墳時代の考古資料、古代寺院の長安寺廃寺跡出土遺物を含む考古資料（市指定）、経塚出土遺物である檜原の血経・経筒（市指定）、南淋寺の移転や中興に関わる少弐頼尚らを供養する石造宝篋印塔（市指定）などがあります。



図2-12 堤当正寺古墳
甲冑出土状況

（2）無形文化財

無形文化財では、近世武家社会の芸能や武術と、古来から続く生業が指定されています。秋月藩の芸能を今に伝える光月流太鼓（市指定）や、武術である林流抱え大筒（市指定）があります。光月流太鼓は風雅さの中に凛とした空気を漂わせ、武家に伝わる太鼓としての品格を感じさせます。林流抱え大筒は秋月藩に多く伝えられていた砲術の中で、唯一現在実演されている砲術です。山野にこだまする豪壮な響きは、秋月藩の尚武精神を現代に呼び起こします。また、川と共に生きた人々の生業を今に伝える原鶴を中心とした筑後川鶴飼（市指定）は、原鶴温泉の夏の風物詩として見学者を和ませています。



図2-13 光月流太鼓



図2-14 林流抱え大筒

（3）民俗文化財

①有形の民俗文化財

有形の民俗文化財は、当時の文化を象徴するものが指定を受けています。恵蘇八幡宮獅子頭（県指定）は享保5（1720）年銘のある江戸中期の作で、今に続く恵蘇八幡宮神幸祭（市指定・無形の民俗文化財）の獅子舞の様相を伝えています。須賀神社の社倉（備荒庫）附由緒碑（県指定）は、文政5（1822）年に旧甘木町民の飢饉救済のために設けられた穀類備蓄庫で、社倉の前には仙厓和尚撰文揮毫による由緒碑が建てられ、江戸時代に頻発した飢饉への備えを知ることができます。



図2-15 須賀神社の社倉

篠崎兎城は元禄・享保年間に活躍した俳人で、池田村出身です。蕉門の十哲である志太野坡

に師事し、九州の俳諧のリーダーとして活躍しました。その篠崎兎城の墓標^{ぼひょう}（市指定）が今も残されています。杷木駅址^{はきえきあと}（市指定）は『延喜式』延長5（927）年に記述のある「把伎駅」です。駅は『大宝令』大宝2（702）年に基づいて全国に官道が整備された際に設置されたもので、大宰府と豊後国府を結ぶ要衝であったと考えられています。詳細な場所は不明ですが、杷木駅の石碑が往事を伝えます。

②無形の民俗文化財

本市では古くから続く神社の祭り・行事が各地で行われており、個性豊かな祭りが多いことも特徴といえます。

杷木の泥打^{はきどろうち}（県指定）は、杷木の阿蘇神社で行われる祭事です。純白の神衣に着替えた代宮司^{だいぐうじ}は、大盃で酒を飲み、泥を体中に塗られて、500mほど離れた道祖神まで御神幸しますが、道中、子どもたちが代宮司めがけて泥を投げつけ、代宮司に泥がつくほど、その年は豊作とされます。

蜷城の獅子舞^{ひなしろししまい}（県指定）は美奈宜神社^{みなぎじんじや}の御神幸の際に奉納されるものです。獅子は胴体をシュロで編み、舞は舞楽を伴わず芸能的なところが少なく、祓いの獅子としての古来の姿をよく残しています。

筑前朝倉の宮座行事^{ちくぜんあさくらみやざぎょうじ}・高木神社の宮座行事^{たかぎじんじやみやざぎょうじ}は、黒川の高木神社で行われる宮座行事です。御当（神当子）と呼ばれる子どもが宮座の中心で、御ホシ^{みとう}による穀霊つなぎ^{みとごこくれい}が行われ、随所に中世以来の貴重な集落祭祀の伝統が見られます。

その他の秋祭りとして恵蘇八幡宮神幸祭^{えそはちまんぐうじんこうさい}（市指定）や、美奈宜神社御神幸行列^{みなぎじんじやごじんこうぎょうれつ}（市指定）などがあり、農業に基盤をおいていた本市域の様相を反映しています。

甘木盆 俄^{あまぎぼんにわか}（市指定）は甘木村の祇園社に奉納された風流に由来するとされ、時代とともに町人による「歌舞伎」へ変化しました。一時中断する時期もありましたが、甘木町の町人文化を今に伝える公演が毎年秋に行われています。



図2-16 杷木の泥打



図2-17 蜷城の獅子舞



図2-18 高木神社の宮座



図2-19 恵蘇八幡宮神幸祭

(4) 記念物

①遺跡（史跡）

指定された史跡は16件で、指定文化財に占める割合は大きく、城跡や古墳、官衙など支配者層に関わるものや治水や利水に関わるものが多いです。平塚川添遺跡（国指定）は、弥生時代の九州北部有数の多重環濠集落の遺跡で、遺跡公園として整備され、弥生時代の風景を今に伝えています。杷木神籠石（国指定）は、古代の山城で、築城の時期は明確ではありませんが、齊明天皇が百濟復興軍を従え下向し、朝倉橘広庭宮をおいたこととの関連で注目されます。

古墳時代の首長墳や九州地方に特徴的な装飾古墳、山中に多く遺る群集墳などの古墳の指定が多く、国指定では小田茶臼塚古墳、県指定では堤当正寺古墳、狐塚古墳、市指定では宮地獄前方後円墳、恵蘇八幡宮1・2号墳、湯の隈装飾古墳、虚空蔵山古墳群などがあります。その他、古墳時代の集落遺跡の松の木遺跡（市指定）や、奈良時代の下座郡の官衙遺跡とされる井出野遺跡（市指定）、本市域最古の寺院跡である長安寺跡（県指定）や恵蘇八幡宮付近にあったといわれる朝倉の関の関守の墓（市指定）、近世秋月藩の御館である秋月城跡（県指定）などが指定されています。



図2-20 小田茶臼塚古墳

また、治水や利水に関わる歴史文化遺産の指定も特徴的といえます。堀川用水及び朝倉揚水車（国指定）は、当地域と川や水、農業の歴史を物語る代表的な史跡で、筑後川に築造された山田堰から取水し、開削した堀川用水から土地の高い地区へ水をくみ上げるものです。これは稼働する最古級の水車ともいわれます。女男石護岸施設（県指定）は、小石原川に近世初頭に築造された治水施設で、当時の面影をよく残しています。

②名勝地（名勝）

近世の庭園が名勝に指定されています。三奈木は福岡藩の筆頭家老であった三奈木黒田家の領地で、三奈木黒田家の別邸（御茶屋）がありました。旧三奈木黒田家庭園（市指定）はその屋敷地に残る庭園で、小堀遠州作ともいわれ、古処山を借景とする座観式の庭です。庭園の水は佐田川の簸井手より取水した水路を通り、庭園へと流れます。



図2-21 旧三奈木黒田家庭園

③動物・植物・地質鉱物（天然記念物）

本市の指定文化財のうち、19件と一番多いのが天然記念物です。自然に自生するものと、人々の信仰の傍らにあって守られてきたものがあり、豊かな自然環境と、人々の信仰を裏付けるものといえます。古処山ツゲ原始林（国指定特天）・秋月のツゲ原始林（県指定）は古処山の山頂付近に自生する、全国的にも貴重なツゲ林で、樹齢1,000年を超えるものもあります。

ヤマネ（国指定）は小石原川ダム建設に伴って行われた生物調査で確認された山地の森林に生息する日本固有種です。久喜宮のキンメイチク（国指定）は、黄金色の樹皮に緑色の筋が入る、見た目も美しい竹で、当地のものは真竹のキンメイチクです。平成29（2017）年九州北部豪雨で被災し、地表面上の竹は枯れてしまい、現在再生事業に取り組んでいます。

また、近年、本市域ではコウノトリ（国指定特天）の飛来が確認されています。

神社や寺院、伝承の地の傍らには、御神木として様々な木が守られています。その中でもクスノキが多く、朝倉の関伝承と関わる隠家森（国指定）や祇園の大樟（県指定）、安長寺の大樟（県指定）、水神社の樟（県指定）、恵蘇八幡の大樟（県指定）、志賀様の大樟（県指定）、松尾神社の大楠（市指定）などがあります。その他、古塔塚のナンジャモンジャ（県指定）、矢野竹のケンポナシ（県指定）、杷木神社のケヤキ（県指定）、普門院のビャクシン（県指定）、志波宝満宮社叢（県指定）、妙見の大イチイガシ（市指定）、田代家のイヌマキ（市指定）、田中天満宮のイヌマキ（市指定）など、古くから本市の人々の営みを見守ってきた木々が今も守られています。



図2-22 隠家森



図2-23 田代家のイヌマキ

（5）文化的景観

本市には人の生活と歴史的環境が合わさった風景として、秋月城下町内を流れる野鳥川と河川構造物群とその周辺の水路や屋敷地などがみられますが、現在選定されている文化的景観はありません。



（6）伝統的建造物群

あさくら し あきづきでんとうてきけんぞうぶつぐん ほ ぞんち く
朝倉市秋月伝統的建造物群保存地区（国選定）は、近世の秋月藩の城下町です。元和3（1623）年に黒田長政の三男、黒田長興が夜須・下座・嘉麻の三郡のうち五万石を分与されて秋月藩が成立しました。秋月藩は福岡藩の支藩でしたが、江戸幕府から直接朱印状を交付された独立藩であり、江戸時代後期以降は財政的な援助に伴う政治的介入を福岡藩から受けつつも福岡藩に対して独自性を有し、明治維新まで継続しました。その際の秋月城や秋月街道を軸とした町割りや屋敷割り、道路網や水路網などの基本的な構造、城館跡、武家屋敷などの屋敷建築、町家を構成する町家建築、伝統的な寺社建築などの城下町の景観を構成する要素は、今も伝えられているものが多くあります。また河川と水路には石積の護岸や石畳の河床が残され、目鏡橋をはじめとした石橋が架かり、田畑や屋敷跡を区画する石積も残されており、田園風景や自然環境と一体をなす景観が、秋月の魅力と言えます。



図2-24 朝倉市秋月伝統的建造物群保存地区



第2節 未指定文化財の概要と特徴

1 未指定文化財の概要

本市では、これまで歴史文化遺産の把握と価値付けに取り組み、重要性の高いものについては指定や選定により保存・活用を図ってきました。しかし、大多数の歴史文化遺産は未指定・未選定・未登録のままであり、いまだに把握できていない文化財も数多く存在しているものと思われます。その存在や重要性を認知しつつも、詳しい調査ができておらず、指定等に至っていないものも多数あります。

これまで把握できた歴史文化遺産は10,094件で、有形文化財4,995件（うち建造物300件、美術工芸品4,695件）、無形文化財6件、民俗文化財3,719件（うち有形の民俗文化財3,661件、無形の民俗文化財58件）、記念物69件（うち遺跡42件、名勝地24件、動物・植物・地質鉱物3件）、文化的景観1件、伝統的建造物群1件、埋蔵文化財580件、文化財の保存技術1件、その他の歴史文化遺産722件です。今後、市民からの情報提供を募りつつ、市内歴史文化遺産の把握を進めていく必要があります。

表2-2 未指定文化財の集計表

類型等	種別		件数	合計
有形文化財	建造物		300	4,995
	美術工芸品	絵画	107	
		彫刻	35	
		工芸品	109	
		書跡・典籍・古文書	3,806	
		考古資料	638	
		歴史資料	0	
無形文化財			6	6
民俗文化財	有形の民俗文化財		3,661	3,719
	無形の民俗文化財		58	
記念物	遺跡（史跡）		42	69
	名勝地（名勝・特別名勝）		24	
	動物、植物、地質鉱物（天然記念物）		3	
文化的景観			1	1
伝統的建造物群			1	1
埋蔵文化財			580	580
文化財の保存技術			1	1
その他の 歴史文化遺産	物語・伝承		14	14
	方言		625	625
	特産品		6	6
	人物史		77	77
合計				10,094



2 未指定文化財の特徴

(1) 有形文化財

市内には社寺建築物が多くありますが、詳細な調査まで実施できたものは限られています。上秋月の^{だいあんじ}大安寺には秋月藩の^{みなみごてん}南御殿から移築された門や本堂が残されており、^{ほとけだに}仏谷の公民館は英彦山道におかれた^{とおりどう}通堂を移築したものとされます。^{はやしだ}林田の美奈宜神社の改築に際しては長田湿拔の満願成就を記念した柱が発見されるなど、歴史的・地域的な特徴を有しているものが多くあります。

考古資料の指定が多いのも本市の特徴で、指定の検討に値する資料が多数あります。行政の体制が整う前に、埋蔵文化財の発掘調査を担ったのが朝倉高等学校史学部でした。朝倉高校の資料室には、^{あさくらこうとうがくぶ}下湊出土の銅矛や、栗山遺跡出土のイモガイ製貝輪、^{かかわ}馬田上原遺跡の磨製石剣など、多数の考古資料が展示・保管されています。



図2-25 馬田上原遺跡出土石剣（朝倉高校蔵）

(2) 無形文化財

甘木絞りは木綿布を糸で括って藍染めする技術で、江戸時代から生産が始まり、明治時代から大正時代にかけて最盛期を迎えました。木綿絞りとしては日本一の生産量を誇る、甘木町の発展を支えた一大産業でした。甘木絞りは小さな鹿の子模様を連続させて、絵画的な模様をつくり上げることを特徴としています。鹿の子模様は鹿子絞りによる絞り染めで製作され、根気強さと洗練された技術が求められます。着物文化の衰退や戦時中の物資統制の影響で減産が続き、産業としては途絶えてしまいましたが、甘木絞り連絡協議会により、技術の向上・保存と再興が目指されています。

(3) 民俗文化財

①有形の民俗文化財

甘木歴史資料館には農業、山の仕事、樫蟬生産、甘木絞りや甘木餅生産、煙草生産など、近世から現代に至るまで、本市を支え、または支え続けている産業に関する資料が収蔵されています。

社寺や集落内に、近世から近代を中心とする石祠や石碑、石灯籠、石製鳥居などが多々見られ、この石造物の多さも特徴の一つです。



図2-26 水神碑と志波の渡し跡



図2-27 石碑と石祠（浜川）

②無形の民俗文化財

7月に須賀神社で疫病退散を目的とした祇園祭りが行われます。江戸時代初期には始まったとされる山笠が町内を練り回ります。また集落内の祭りや信仰として、オシシイレといい、獅子舞を奉納し、無病息災を願う行事や、農耕儀礼のオコモリやタブリュウ、水神、川祭りが行われ水難や早魃などの災厄除けの行事が行われます。特にお盆の時期には、盆綱という、お盆に地獄から祖霊を引き上げるために藁でつくった綱を集落内で引き回したり、綱引きをしたりする行事が行われています。

おしろいまつりは大山祇神社で行われる祭りで、直会では名前の由来となった「しとぎ塗り」の神事が行われます。寛政10(1798)年に出された『筑前国続風土記附録』には、この神事のことが記されています。鎮祭は杷木神社で春秋2回行われる行事です。神無月に出雲に行かずに氏子の安全を守る神様に感謝するもので、その間、氏子は大きな音や臭気を放つことを禁じられています。鎮祭の終わりには春は5時、冬は5時半に太鼓を鳴らして終了を告げ、神社では氏子総代全員集合のもと、さめ矢の行事が行われます。



図2-28 おしろいまつり

粥占いは粥や飯を半月から1カ月ほど放置し、それについたカビの具合により豊凶や天候を占うもので、恵蘇八幡宮や、老松神社、高良王子宮で行われています。

一方、市の特徴的な無形の民俗文化財として食文化を挙げることができます。市域では、お正月の雑煮が、餅入りの茶碗蒸しになっているものを筑前朝倉蒸し雑煮といい、文化庁の「100年フード」に認定されています。秋月藩が長崎警護をしていたことや養鶏が盛んであったことからつくられるようになったと考えられています。蒸し雑煮を食べる地域は秋月藩領が中心ですが、旧朝倉町や旧杷木町でもみられます。また、くずかけは、鶏肉や根菜を細かく刻んで入れ、葛でとろみをつけた汁です。「(馬)ホルモン」はニンニクとともに鉄板焼きにした(馬)ホルモンにソースをかけて食べるもので、陸軍大刀洗飛行場が近くにあったことに由来するともいわれますが、詳細は不明です。近年では馬以外のホルモンを使用したものも広まっています。



図2-29 筑前朝倉蒸し雑煮

(4) 記念物

本市域には、非常に多くの遺跡が残されていますが、存在は知られているものの、詳細が未調査であるため、それぞれの時代や要素で本市の歴史文化を特徴付けるものでも、指定による保護に至っていないものが多数あります。九州横断自動車道の建設に伴う発掘調査では、旧石器時代から近世に至るまで、様々な遺跡が確認されました。発掘調査がされた遺跡の他にも、弥生時代の墓(栗山遺跡、平塚二塚遺跡)や古墳時代の首長級の古墳(烏集院古墳、長田古墳、恵蘇八



まんぐう こふん ほんじん こふん し わ ほうまんぐう こふん かまつか こふん つるぎ
 幡宮古墳、本陣古墳、志波宝満宮古墳、鎌塚古墳、剣
 塚古墳、高住社1号墳、郡司塚古墳等)、古代の山岳寺
 院(堂ヶ尾廃寺、山田倉谷遺跡)や、本市の中世史を彩
 る黒川院関連遺跡群(御館跡、御下屋敷跡等)や秋月氏に
 関係する城郭群(古処山城、荒平城、長尾城、麻氏良
 城等)、古代～近世の道(秋月街道、彦山道、日田往還)、
 近世の治水・利水遺産(山田堰、篠井手、野鳥川の護岸・
 石畳、ホウキ谷水道、佐田川・小石原川の尻切れ土居、長
 田湿抜等)、近代の歴史文化遺産(古処山航空灯台跡、
 大刀洗飛行場関連遺構)などが挙げられます。



図2-30 郡司塚古墳

(5) 文化的景観

秋月城下を流れる野鳥川や天神川、鳴渡川は、城下の形成とともに
 人の手が加えられてきました。護岸の石垣、堰や橋の下流に設置される
 河床の石畳、町並みや屋敷内を流れる小水路は、城下の治水と利水の要
 であるとともに、煌めく水や爽やかな水の音は、人々の生活に彩りを添
 えています。豊富な水に支えられて、葛粉や和紙の生産もされ、一つの
 文化的景観を形成しているといえます。

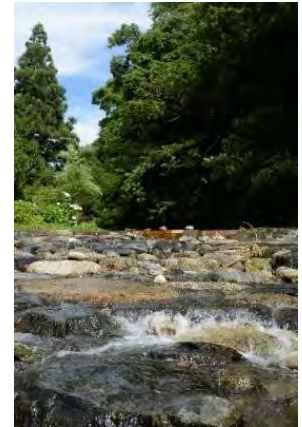


図2-31 野鳥川の堰

(6) 伝統的建造物群

比良松は、日田往還に面した郷町で、入母屋妻入りの
 商家が軒を連ね、幕末～明治の様相を比較的よく残し
 ています。舒翠館は明治18(1885)年に建てられた、本
 市最古の公会堂です。



図2-32 比良松の町並み

(7) 埋蔵文化財

市内には現在580箇所の周知の埋蔵文化財包蔵地があります。低地には中世の集落遺跡、台地
 上に弥生時代や奈良時代の集落遺跡が多く、山間部には縄文時代や中世の集落遺跡、山中には群
 集墳や古代～中世寺院跡、中世山城などがみられます。埋蔵文化財包蔵地は、法第93・94条
 に基づき、土木工事等の開発に際して開発者に届出を求め、事前に試掘等確認調査の対応を行い、
 遺跡の保存のための協議を行います。

(8) 文化財の保存技術

蜷城の獅子舞などのシュロ蓑^{みの}を編む技術で、県の文化財の保存技術保持者がいましたが、保持者の逝去により選定解除となりました。現在、シュロ蓑を編む技術は獅子舞の保存会に伝えられ、技術の修練と継承が図られています。

(9) その他の歴史文化遺産

①物語・伝承

伝承、時の権力者や災害に関わる伝説、仏教説話的な話、民話、地名起源伝承に至るまで、本市には様々な物語・伝承が伝わっています。あくまでも伝説や伝承であり、歴史的な資料に基づくものではありませんが、本市の歴史文化の様相を知ることができるものとして、未来へ伝えていきたい歴史文化遺産の一つです。代表的なものとして、『日本書紀』などに、神功皇后の新羅征伐の際の荷持田村^{のとりだむら}に住む羽白熊鷲^{はじろくまわし}の討伐の話が登場しますが、秋月の野鳥あたりのことといわれています。

その他、安倍貞任伝説^{あべさだとう}や源為朝伝説^{みなもとためとも}など人物に関わる伝承のほか、「千代島長者^{ちよしまちやうじゃ}」や「大膳くずれ^{だいぜん}」など、時の権力者や災害に関わる伝説、「鴛鴦観音^{おしどりかんのん}」や「玉泉寺片袖の御仏^{ぎよくせん じかたそで みほとけ}」など、仏教説話的な話、「若市のゴッテどん^{わかいち}」などの民話、「獅子爪岩^{ししづめいわ}」など地名起源伝承が、本市には伝わっています。

②方言

朝倉らしさの中に、人々が発する方言があります。意味という根底を同じくしつつも、時代とともに変化していく言葉を保存していくことは難しいですが、当地域ならではの方言を意識し、伝えて行くことも必要です。『かたんべべ』（松田秋廣 2010）には、筑前甘木の方言を中心に朝倉の方言がまとめられています。その中でも、当地域に限定されるものを歴史文化遺産の一つとします。

③特産品

本市には地域特有の特産品があります。「川茸^{かわたけ}」（スイゼンジノリ）は江戸時代から続く特産品で、秋月藩の藩主黒田長舒は「寿泉苔^{じゅせんたい}」として生産を奨励しました。澄んだ湧き水で栽培される、朝倉ならではの水の風景です。同じく澄んだ水を活かし、秋月では葛粉や手漉き和紙の生産が行われています。また三奈木では黒砂糖の原料となるサトウキビ生産も再興し、生産された砂糖は「三奈木砂糖」の名称で販売されています。



図2-33 川茸



④人物史

本市は、様々な歴史的偉人が輩出されてきました。また、本市と深く関係しながら歴史を重ねてきた人物や、それら偉人に係る伝承があります。

表2-3 時代・分野別の歴史的偉人

	政治・軍事	思想・宗教	土木・建築	商業・産業	学問・医療	芸術・文化	スポーツ
原始		羽白熊鷲 神功皇后					
古代	斉明天皇 中大兄皇子	最澄					
中世	原田種雄(領主) 秋月種宗(蒙古襲来) 秋月種実(領主) 恵利暢亮(忠臣) 黒田直之(領主)	助有(座主) 長慶天皇 舜有(座主) ダミアン(布教補助)					
近世	栗山利安(領主) 栗山大膳(忠臣) 黒田一成(領主) 黒田長興(藩主) 鬼木佐太夫宗直(忠臣) 黒田長舒(藩主) 間小四郎(藩政)	マティアス七郎兵衛 (殉教) 戸原卯橋(勤王) 海賀宮門(勤王)	堀平右衛門(治水) 十時原助(土木・用水) 古賀百工(用水) 大内弥平(湿拔) 松岡九郎次(湿拔)	興善膳入(商業) 遠藤幸右衛門(川葺) 佐野半平・弥平 (商業)	原古処(学問・教育) 緒方春朔(種痘) 宮永保親(国学)	篠崎禎城(俳人) 後藤遊五(俳人) 貝原東軒(文人) 斎藤秋圃(絵師) 原采蘋(漢詩) 佐野東庵(文人)	
近代	秋月党七士(秋月の乱) 香月悠経(国政) 加藤新次郎(国政) 加藤新吉(村政・教育) 馬場義統(司法)	臼井六郎 (公式最後の仇討)	大倉種周(測量) 橋本郁太郎(地下水揚水) 都合徳太郎(開田)	安陪庄作(養蚕)	江藤正澄(国学) 井上節堂(教育) 井上哲次郎(哲学) 雑賀博愛(学問) 坂本真鈴(考古学) 調来助(原爆医療) 古賀良彦 (胸部レントゲン) 古賀益城(歴史) 緒方傳(歴史)	梶原寅次(幟・絵馬) 熊本与市(幟) 豊島与志雄(文学) 宮崎胡処子(文学) 金田和郎(画家) 奈田金十(彫刻) 徳田玉龍(画家) 大坪草二郎(歌人) 上野嘉弥太(製紙・文人) 花田大五郎(教育・歌人) 小野房子(俳人) 大内田茂士(画家) 萩谷巖(画家) 飯田栄彦(児童文学) 佐野至(版画家)	初代梅ヶ谷藤太郎 (相撲) 後藤 暢 (水泳)

※各人物の詳細についてはここでは紹介できないため、『ふるさと人物誌—朝倉に光を掲げた人々』
(平成24年 朝倉市ふるさと人物誌編纂委員会) などをご参照ください。



秋月400年の基礎を築く 黒田長興

秋月は中世以来、秋月氏の拠点がおかれ、秋月氏の移封後、元和9（1623）年に福岡藩の支藩として秋月藩が成立します。黒田長興は初代藩主となり、御館や城下の整備を行いました。同時に新田開発や植林育成、女男石の護岸工事や秋月街道開削など、領地の整備も進め、現代につながる基礎をつくりました。



図2-34 黒田長興の甲冑

水の流れを豊饒に繋ぐ 古賀百工

筑後川より土地の高い朝倉地区に水を引くため、寛文3（1663）年に堀川が掘削されます。その後堰の築造や改修を重ね、明和元（1764）年に大庭村庄屋古賀百工（十作義重）らを中心に突分けから中村方面に至る新堀川が開削されます。寛政2（1790）年には古賀百工により山田堰の大改修がなされ、現在の山田堰の形がほぼ完成しました。古賀百工は先代から引き継いだものを発展させ、水の豊かな朝倉の基礎をつくりました。

我が国種痘の祖 緒方春朔

緒方春朔は、江戸時代に猛威をふるっていた天然痘の予防法である「種痘法」を、寛政2（1790）年に成功させました。上秋月の庄屋である天野甚左衛門の協力を得て、天野家の子らに種痘法を施術し、成功したのです。緒方春朔は『種痘必順弁』に種痘法をまとめ、全国にその方法を広め、天然痘の根絶に大きな役割を果たしました。



図2-35 緒方春朔



あさくらの昔話と災害の記憶① ～ 千代島長者 ～

むかし、斯波時勝^{し わ としかつ}という武士が寝ているとき、ふと気配を感じて目を覚ますと、枕元に一人の女が座っていました。女は濡れたような髪をしていて、この世のものとは思えないほどの美人でした。時勝はひるまず、「何者か！」と叫びました。

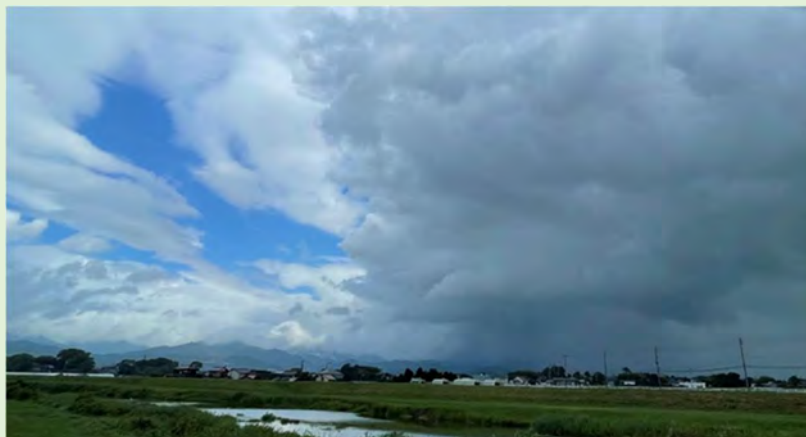
すると女は、「高山^{こうやま}淵に長年住み着いた大蛇の化身でございます。高山には大小二つの淵があり、そのうちの下にある大きな淵が、私の長年住んでいるところです。ところが、近頃上の淵に私よりも大きな大蛇が住みついてまいりました。小さな淵では身動きが取れないため、私を大きな淵から追い出そうと、毎日私を苦しめ、果てには殺そうとまでいたします。そこで勇猛なあなた様に救っていただきたく、お願いに参りました。あの大蛇を退治していただけたら、あなたを千万長者にして差し上げます。」そう言い終わると女はいつの間にかいなくなっていました。

この大蛇を助けることにした時勝は、家来をつれて高山の淵に出かけ、姿を現した小淵の大蛇を、一矢にして射殺しました。

その後、時勝は女の言う通りの大金持ちになり、千代島に住んでいたので千代島長者と呼ばれたということです。筑後川の河辺には時勝の土蔵が立ち並んでいたと言います。ある時、普門院に参詣しようとしたら、道がぬかるんでいたのも、時勝は金を敷いて飛び石代わりに使ったとまで言われています。

しかし、この豪勢な生活も長続きしませんでした。ある日、時勝は都から芸人をよんで、川に船を浮かべて川遊びをしていました。すると、俄に雷鳴がとどろき、瞬間に大雨が降り始めました。筑後川は激流となって時勝の舟が波に飲まれそうになったとき、雷鳴と共に「時勝、我は汝のために殺された大蛇である。豪奢にふけた汝の末路、思い知ったか！」と声が聞こえました。時勝一門は川波に飲まれ、河辺の蔵も、豪華な邸宅も、一瞬のうちに流されてしまったということです。今も千代島の地名は残っており、斯波^{しわ}の名は志波^{しわ}の由来とも言われています。

「杷木町史」より



局所的に降る大雨

第3章

歴史文化の特性



第1節 歴史文化の特性

本市で育まれてきた特色ある歴史は、歴史文化遺産と人々の生活とが調和し、「朝倉の風景」として受け継がれています。

重層的な歴史と文化を示す遺産が、人々の生活と自然の中に調和した「朝倉の風景」として随所にみられることが本市の歴史文化の特性といえます。

例えば、今も人々が通る秋月街道の横に小石原川が流れ、当時の土木技術を駆使して築かれた女男石護岸施設が街道を守りつつ、下流へと川の流れをつないでいます。

その護岸上には水神である八大龍王^{はちだいりゅうおう}が祀られ、その向こうには古処山がそびえます。この女男石護岸施設は「朝倉の風景」の代表例といえます。

本市の歴史文化の特性は、それぞれのものが所在する場所や関連する要素から、「水」、「土」、「山」、「道」、「祈り」の五つの風景に整理することができます。逆に、これら五つの要素をもとに本市の歴史文化をみていくと、より「朝倉らしさ」に迫ることができるといえるでしょう。

※この章での「朝倉」は、朝倉市のことをいいます。



図3-1 古処山と女男石護岸、秋月街道、八大龍王

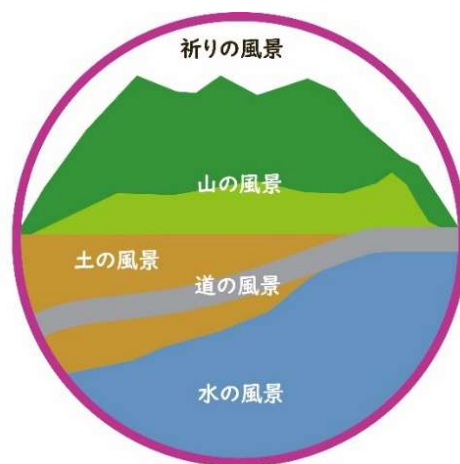


図3-2 朝倉の五つの風景の概念図



1 水の風景 ～筑後川流域と朝倉の水辺～

本市を流れる河川の流れは絶えず市域を潤しています。水によって育まれた朝倉の歴史文化遺産は、水と密接な関係にあり、両者は切り離して考えることはできません。水と共生し、挑み続けた人々の想いが今なお息づいています。

2 土の風景 ～平塚川添遺跡と埋もれていた朝倉文化～

土を起こし、あるいは土から焼き物をつくり、土に帰っていった先人たちは、大地に遺跡や古墳を残し、今に至る礎を築くとともに、生きた証を大地に刻んできました。考古学界では、「筑紫の宝庫」とであるといわれるほど、古くから多くの遺跡や考古資料が知られる地域です。

3 山の風景 ～古処山をはじめとする朝倉の山の中の物語～

古処山をはじめとする朝倉の山々は、市域の大半を占め、古代から近世に至る様々な歴史文化遺産があります。また、山々にはヤマネやクマタカなどの希少生物の生息も確認されていて、豊かな自然環境が残されています。

4 道の風景 ～古代女帝の物語と朝倉の道と拠点～

古くは大宰府と豊後を結ぶ官道が、日田往還へと発展し、小倉と田代を結んだ秋月街道、彦山詣の道として使われた彦山道など、主要な道沿いには町が発展し、政治拠点や軍事拠点が形成されました。こうした道の風景は、道とともに発展してきた当地の歴史を物語ります。

5 祈りの風景 ～朝倉の祭りと祈り～

祈りは水・土・山・道と密接に関わります。河川沿いの水神や古代の祭祀道具、山岳信仰に関わる社寺、街道沿いの石造物など、それぞれの風景に関わる信仰や四季折々の祭りなど、個性豊かな祈りの風景が地域に息づいています。



1 水の風景 ～筑後川流域と朝倉の水辺～

古処山系や朝倉低山地から流れ出た清水は、田畑を潤しながら筑後川へと注いでいきます。あるいは山中から地下に潜り、伏流水として流れ、湧水や灌水池として人々の生活を潤してきました。しかし、「川近けれど水遠し」といわれるように、大河筑後川が近くを流れていても、農用利用が難しい時代が長く続きました。同時に、一度大雨が降れば筑後川は暴れ、市内を流れる中小河川も豹変し、人々に被害をもたらしました。本市の歴史は水の恩恵への感謝と畏怖を根幹とし、人と水との物語を示す歴史文化遺産が多く残され、水の風景を今に伝えています。

水をめぐる物語は、人々の治水と利水の物語でもあります。弥生時代から古墳時代前期の集落遺跡である平塚川添遺跡は、低地の排水なども兼ねた環濠に囲まれています。近世になると、秋月城下の整備に合わせて野鳥川の石積み護岸や護床工など治水施設が整えられました。こうした治水・利水工事に石を使う技術は各地で取り入れられ、江戸時代の中期～後期には荒籠や蛇籠を使う簡易的なものから、本格的な石組みによる堰や水制工などに変化していきます。山田堰の築造・大改修や堀川の開削は人々に大きな恵みをもたらし、揚水車による水のくみ上げなどのさらなる工夫もされました。堰の築造は恵みをもたらす一方、長田地区のように、他藩が設置した堰で川の水嵩が増し、長く湿地と化す害を被る場合もありました。長田湿抜は、長い排水溝の掘削と川の下に暗渠を通す大工事で、こうした負の側面を改善するために立ち上がった人々の物語を今に伝えます。

また、水を農用利用するだけでなく、川に住む生き物や川や水の特性を活かした生業が営まれました。筑後川で獲れる鮎は奈良時代には既に特産品として認識され、今では原鶴を中心とした筑後川鵜飼として伝えられています。また豊富な湧き水や清水を利用してスイゼンジノリが栽培され、「川茸」として今も栽培されます。豊富な水は葛粉の生産や、甘木絞りの木綿晒し、和紙の生産など、様々な人々の生活を支えていたのです。

水は人々の営みの根源ですが、他の生物にとっても素晴らしい環境で、初夏にはホタルが飛び交い、水中にはタナゴやスナヤツメ、オキチモズクやチスジノリなどの希少な生物や、チョウトンボやコウノトリなどが見られる豊かな生物環境が残されています。

キーワード

時代：古代から現代

地区：甘木地区、朝倉地区、杷木地区

歴史文化遺産：平塚川添遺跡、女男石護岸施設、長田湿抜、筑後川鵜飼、川茸、葛粉、甘木絞りの木綿晒し 等



図3-3 野鳥川の治水・利水施設



図3-4 山田堰と水神社・大クス



図3-5 原鶴を中心とした筑後川鵜飼



2 土の風景 ～平塚川添遺跡と埋もれていた朝倉文化～

土を起こし、あるいは土から焼き物をつくり、土に帰っていった先人たちは、大地に遺跡や古墳を残し、今に至る礎を築くとともに、生きた証を大地に刻んできました。九州における考古学の先駆者の一人である鏡山^{かがみやまたけし}猛が、「筑紫の宝庫」であるというほど、古くから多くの遺跡や考古資料が知られる地域です。

当地域は古くから大陸文化を受け入れ、弥生文化の醸成を始めていたようです。弥生時代は筑後川とその支流である小石原川、佐田川、桂川近くの低台地上や自然堤防上に集落が形成されます。福田台地では多くの弥生時代遺跡が展開するようになり、中期の栗山遺跡では大規模な甕棺墓群が調査されていて、鉄戈や前漢鏡、イモガイ製貝輪などが出土しています。これらは九州北部の弥生人たちが活発に交流していた様子や、技術的な先進性を有していたことがうかがえます。また、それら副葬品や供献品は、有力者の存在を示すものです。平塚川添遺跡や平塚山の上遺跡は後期～古墳時代初頭を中心とする大規模な集落遺跡で、佐賀県の吉野ヶ里遺跡^{よしのがりのせき}などとともに、邪馬台国と同時代の遺跡として注目されました。

古墳時代になると、弥生時代の基盤を受け継ぎ、ヤマト王権の影響のもと、市内にも三角縁神獸鏡^{さんかくぶちしんじゅうきょう}が副葬される古墳（神蔵古墳）や、前方後円墳が築造されます。

中期には堤当正寺古墳が築かれます。この被葬者を頂点とし、その傘下に朝鮮半島からの渡来系集団が活躍していたようです。渡来系集団は須恵器の製作技術や馬匹生産、鍛冶、土木工事技術など当時の最先端技術を持つ人々でした。この集団が葬られたのが池の上・古寺墳墓群です。こうした半島との強いつながりがうかがえる文化が本市の古墳文化の特徴の一つといえます。

弥生時代・古墳時代に限らず、各時代の埋蔵文化財が豊富に残されていることも本市の特徴といえ、本市のアイデンティの根幹として、大切にしていきたいものの一つです。



図3-6 平塚川添遺跡



図3-7 栗山遺跡



図3-8 栗山遺跡出土土器



図3-9 堤当正寺古墳



図3-10 神蔵古墳出土品

キーワード

時代：古代

地区：甘木地区、朝倉地区、杷木地区

歴史文化遺産：栗山遺跡、平塚川添遺跡、平塚山の上遺跡、堤当正寺古墳、池の上・古寺墳墓群 等



3 山の風景 ～古処山をはじめとする朝倉の山の中の物語～

古処山をはじめとする朝倉の山々は、市域の大半を占め、古代から近世に至るまでの様々な歴史文化遺産があります。

山中に築かれる古墳群、古代山城「杷木神籠石」、古代山岳寺院など様々ありますが、特筆すべきは中世彦山修験の座主の館「黒川院」と戦国の興亡を物語る秋月氏関連城郭群です。

黒川の地には14世紀以降、彦山の座主の館が築かれました。彦山は九州北部の修験道の中心として繁栄していて、それまで山中の僧から座主が選出されていましたが、座主の座をめぐる不穏な情勢が続いたため、天皇家から長助法親王を招き、豊前の宇都宮氏と婚姻関係を結び、座主を世襲制としました。これ以降、黒川院は室町～戦国時代の約250年の間、彦山の拠点の一つとして繁栄し、近年の発掘調査でその姿が明らかになりつつあります。彦山の座主は神領を有し、多くの僧を従えていたため、周辺の領主も無視できない存在であり、戦国時代には大友氏や龍造寺氏、秋月氏などの狭間で大きく揺れ動かされていたようです。彦山の信仰は座主の館が英彦山に遷ってから後も続き、高木神社（大行社）では古式を留める宮座が今も伝えられます。英彦山道は近世に流行した英彦山詣^{ひこさんもうで}の道で、特に肥前からの人々が仏谷^{ひしの}や菱野の通堂を抜け、英彦山へ向かいました。



図3-11 黒川院遠景

秋月氏は秋月を拠点とした豪族です。建仁3（1203）年の原田種雄の秋月入部から始まり、戦国時代末期の秋月種実の頃には筑前を代表する国人領主として成長します。一時は滅亡の危機に瀕しながらも、大友氏との融和や敵対を繰り返し、戦国の世を渡り歩きました。その軍事的緊張の中で、荒平城、古処山城をはじめ、山中には多くの山城が築かれました。山城は、曲輪^{くるわ}を中心に堀切^{ほりきり}や畝状空堀群^{うねじょうからほりぐん}などから構成されており、今でもその名残をみることができます。



図3-12 荒平城の堀切

秋月氏が拠点とした古処山城は古処山の頂上付近一帯を城域としており、そこにはツゲの原始林が広がります。ツゲを食草とするニシキキンカメムシの生息も確認されています。この古処山系の山々にはヤマネやクマタカなどの希少生物の生息も確認されていて、豊かな自然環境が残されています。

キーワード

時代：古代から近世

地区：甘木地区

歴史文化遺産：黒川院、高木神社、彦山道、荒平城、古処山城、古処山等



4 道の風景 ～古代女帝の物語と朝倉の道と拠点～

古くは大宰府と豊後を結ぶ官道が、日田往還へと発展し、小倉と田代を結んだ秋月街道、彦山詣の道として使われた彦山道など、主要な道沿いには町が発展し、政治拠点や軍事拠点が形成されました。こうした道の風景は、道とともに発展してきた本市の歴史を物語ります。

古代官道としての遺構は未発見ですが、『大宝令』に基づいて全国に官道が整備され、『延喜式』には旧朝倉三郡（夜須郡・上座郡・下座郡）には「隈崎」、「広瀬」、「杷伎」の三駅があったとされます。こうした官道が整備される以前から、大陸の玄関口である博多から二日市地峡帯を通り、豊後へ抜ける道があったようです。

百済滅亡に際して、斉明天皇が率いる百済復興軍は「朝倉橘広庭宮」を拠点とし、百済復興を進めますが、斉明天皇は崩御し、復興軍も白村江の戦いで唐・新羅連合軍に大敗を喫します。朝倉宮があった場所は未発見ですが、斉明天皇と朝倉橘広庭宮伝承が随所にあり、恵蘇八幡宮など斉明天皇を祭神とする神社があります。杷木神籠石はこの大陸との緊張関係の中で築かれた可能性が高く、本市が要衝であったことを物語ります。

古代官道は拠点を結び、井出野遺跡や八並遺跡で古代官衙の跡が確認され、近くには里の寺院である長安寺廃寺跡と堂ヶ尾廃寺など山の寺院が整備されました。これら寺院では大宰府系の瓦が使用されていることから、政治・宗教において、大宰府の強い影響下にあったことがうかがえます。

秋月氏の拠点であった秋月は、近世に福岡藩の支藩として秋月藩が成立し、秋月街道が通る政治・文化の拠点の城下町として栄えました。また、福岡と豊後を結ぶ日田往還は、人々の往来のにぎやかな道で、甘木町は「甘木千軒」といわれ、安長寺や須賀神社の門前町であり、商業の拠点としても繁栄しました。同じく日田往還沿いの比良松も街道沿いの町として栄え、今でもその面影を強く残しています。

近代には東洋一の飛行場として陸軍大刀洗飛行場がおかれ、繁栄します。同じ頃に発達した朝倉軌道や両筑軌道などの鉄道網も、近代の発展を支えました。

キーワード

時代：古代から近代

地区：甘木地区、朝倉地区、杷木地区

歴史文化遺産：秋月街道、彦山道、恵蘇八幡宮、杷木神籠石、井出野遺跡、八並遺跡、長安寺廃寺跡、堂ヶ尾廃寺、日田往還、陸軍大刀洗飛行場 等



図3-13 朝倉橘広庭宮の碑



図3-14 恵蘇八幡宮



図3-15 杷木神籠石第2水門



図3-16 秋月街道（新八丁）



5 祈りの風景 ～朝倉の祭りと祈り～

市域には、式内社や、普門院や南淋寺などの古刹こさつがあります。また個性豊かな祭り・行事が、各地で開催されます。本市に残る神社や寺院、祭り・行事などには、先人の思いや祈りが込められ、今に至る祈りの風景となっています。

祈りの風景は先に述べた水・土・山・道の風景とも密接に関わります。水路や堰の傍らに祀られた水神などにみる「水の風景」、古墳に埋葬された死者へ捧げられた土器などにみる「土の風景」、山岳信仰などにみる「山の風景」、道沿いに祀られる猿田彦さるたひこや道祖神どうそじんなどにみる「道の風景」など、それぞれの風景の傍らには常に祈りの風景があります。

また、四季折々、様々な祭り・行事が今も行われており、杷木の泥打やおしろい祭り、鎮祭など個性的なものから、博多の影響を受けた山笠、古来の面影の強い宮座行事、荒々しい獅子舞から雅な獅子舞まで、多様な民俗文化財をみることができます。

上記のような人々の一年間の生活と密接に関わる民衆の祈りのほかに、歴代藩主を葬り、祀る秋月藩の秋月黒田家墓所や、藩の祈禱寺であった日照院、初代藩主黒田長興を祀る垂裕神社すいよくじんじや、黒田氏の祖である黒田孝高の菩提を弔う円清寺など、時の為政者と密接に関わる社寺も多く存在します。

また、戦国時代から江戸時代の初めにはキリスト教が布教され、多数のキリシタンがいました。秋月や上秋月、甘木にはレジデンシアがつくられたといえます。キリスト教が繁栄した秋月ですが、禁教令後は、幕府の先方として天草・島原一揆の鎮圧をすることになりました。

このように祈りでつながる歴史文化遺産は、本市の貴重な風景となっています。



図3-17 岩屋権現下宮



図3-18 簀井手と水神



図3-19 須賀神社の祇園山笠

キーワード

時代：古代から現代

地区：甘木地区、朝倉地区、杷木地区

歴史文化遺産：杷木の泥打、おしろいまつり、鎮祭、山笠、宮座行事、獅子舞、日照院、垂裕神社、円清寺、レジデンシア 等